

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 3月15日放送分 出会いを生きし 衝撃吸収装置を開発

### 3月15日放送分 出会いを生きし 衝撃吸収装置を開発

3月15日(TX・TVO)

16日(TVA・TVH・TVQ・RCC)

17日(BSJ)

大阪市にある(株)エヌケイシー(資本金1,000万円、従業員5名)は、自動車の衝突事故時の衝撃を緩和する車両用衝突緩衝装置を開発。

同社は1999年創業のベンチャー企業であるが、このような製品を開発出来たのは、大阪府立産業技術総合研究所との共同研究が大きな力となったという。研究開発型ベンチャー企業の公設研究所との連携の意義を探る。

#### 出会いを生きし 衝撃吸収装置を開発

[視聴覚教材No. TV14-50](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



交通事故の衝撃から運転者の命を守る衝撃吸収装置を開発した(株)エヌケイシーという会社があると聞いて大阪にやってきた志垣さん。

こちらがエヌケイシーの山崎社長。阪神・淡路大震災をきっかけに人の役に立とうと決意し、介護用品の販売を開始したという。それが何故、衝撃吸収装置を開発することに？



介護用品に使われた衝撃吸収用ゴムが高



性能であったため、電子顕微鏡の防振装置や衝撃吸収性能の高いガードレールの開発について問い合わせを受けることに。そして、ガードレールについて調べるうちに、衝突事故の衝撃から運転者の命を守る装置の早期開発が望まれていることを知った山崎社長は、衝撃吸収装置の開発を決意したという。

弟の山崎開発室長。元々はゴムメーカーに勤務。介護用品に使用されていた衝撃吸収用ゴムはこの人が探してきた。



衝撃吸収装置の開発に着手した当社にとって一番の問題だったのは資金調達。だが、これも中小企業創造法の認定により融資を受けられたため解決し、研究を続けることができた。そして、完成した衝撃吸収装置はその名も「SHOCK PROTECTOR」。現在は高速道路や国道に設置されているというが…

POINT: 中小企業創造法



これが「SHOCK PROTECTOR」。従来、使用されていた砂袋などよりも優れた衝撃吸収性能を誇る。その開発にあたってはある機関の協力があったという。





その機関とはこの大阪府立産業技術総合研究所。

こちらは研究所の中嶋工学博士。実験データに基づき、衝撃を吸収する緩衝材の素材について助言。その他にも、度々当社の相談にのり、「SHOCK PROTECTOR」の開発にとって大きな力となった。



POINT: 相談はじゃんじんと



(株)エヌケイシーが開発した「SHOCK PROTECTOR」は、宏和工業(株)に製造を委託している。こちらは宏和工業(株)の和田社長。独自で事業を展開するのではなく、中小企業が集まって、それぞれ良いものを出し合えば良い製品ができると語った。

POINT: 中小企業は連携が大切



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN